



天、 (にぶつ)を与えず。(人間誰でも、欠点はあるもの)
* 勉強が出来ないといって落ち込むな。君にはスポーツがあるじゃないか。

も木から落ちる。(どんなにその道の達人であっても、失敗することはある。
(類似の諺：河童の川流れ)
* 君のように長くやっている者でも、失敗することがあるのだから、わたしが出来なくても恥じゃあないね。

三度目の (しょうじき)。(三度目じゃ確実と言う)勝負ごとでよく使われる。
* 三度目の〇〇で、今度こそ成功させるぞ！

禍(わざわい)も 年経(た)てば福となる。(不運も、時間が経てば幸運の種になることもある。)
* その期待外れの経験も、きっと無駄にはならないと思うよ。



日本の年表 ***日本の神話→日本国の起源：天照大御神(アマテラスオオミカミ)『日本書紀』に記されている。
出雲から伊勢へ聖地を移す。太陽神(女神)高天原の天の岩戸に隠れ闇となる話し。

縄文時代 → 弥生時代 → 古墳時代(仁徳天皇の古墳)

1. 飛鳥時代(592-710) 2. 奈良時代(710-784) * 平城遷都(せんと)1300年周年 平安京は奈良時代日本の首都。聖徳太子: 朝廷を維持しと憲法や仏教によって民を守護することに尽力。朱雀門(すざくもん)は御所への南門。皇族の時代。東大寺(大仏)、興福寺、法隆寺等)



奈良朱雀門↑

3. 平安時代(784-1184) 平安京(京都)に遷都。桓武天皇～、皇族・公家、武士台頭まで400年間。紫式部「源氏物語」、女性作家、歌人「万葉集」(歌集)かたかなで書く。



紫式部→

4. 鎌倉時代(1190-1334) 古代から中世へ:

鎌倉は政治の所在地。朝廷・源氏&平家の武将、武士。

鎌倉幕府→武家政治の始まりで、朝廷(天皇・皇族)の力が弱まる。

5. 南北朝・室町時代(1334-1573) 6. 安土桃山時代(1573-1596) 全国制覇を志した二人の城主、織田信長(1568 入京・安土城)から、豊臣秀吉(大阪城・1598 死去)迄。次期の徳川家康にいたる戦国時代。★富を背景にした豪商・新興商人による豪華絢爛たる文化が栄える。千利休(茶道)と豊臣秀吉の親交と自殺。

7. 江戸時代(1597-1868) 秀吉の江戸城(徳川幕府から明治維新) 町人の繁栄、江戸の町奉行など。

8. 明治時代(1868-1912) 日本の近代史が始まる。西洋文化が入り文明開化。天皇制+国会議員制始まる。

9. 大正時代(1912-1926) 短い自由民権の時代 大正デモクラシーと大正ロマンを市民が愉しむ。

10. 昭和時代(1926-1989) 軍国主義が神化された天皇の下に世界大戦に挑む。原爆被害と敗戦。平和憲法

11. 平成時代(1989. 1月8日-) ハイテク技術革新～バブル経済 人口の減少：少子化・高齢化問題

日本の金言・名句から

1. 聖徳太子「和を以(も)って尊しとす。」飛鳥時代、生誕574-622 四天王寺と法隆寺等建設、奈良明日香村に行こう!
2. 世阿弥「初心忘るべからず。」(1363-1443) 能役者として名声を博す。父と共に現代の能舞台を大成。
3. 徳川家康「不自由を常と思えば不足なし。」江戸幕府の初代戦国大武将 徳川氏の祖 豊臣秀吉を打つ 江戸城を築く
4. 宮元武蔵「われこ事において後悔(こうかい)せず。」岡山県出身。江戸初期の剣豪、兵法者。剣の道一筋：多くの逸話。
5. 徳川光圀公「苦は楽の種、楽は苦の種と知るべし。」(1628-1700) 江戸時代の文武、世情に通じた水戸黄門として人道の真理を説き、格さんと助さんを連れて日本全国を旅する。現代もTVドラマなどで大変親しまれている。
6. 貝原益軒「知って行わざるは、知らざるに同じ。」1630-85歳 儒学者、医学と教育に尽し書物を記した
7. 坂本竜馬「世に生を得ることを為すにあり。」四国高知生。明治維新に多大な影響を与えた幕末の志士。
8. 寺田寅彦「天災は忘れたころにやってくる。」四国高地生。明治時代の物理・気象学者、随筆家、俳人。
9. 平塚らいちよう「元祖、女性は太陽であった。」明治19生。作家、昭和にかけて女性の思想化『青鞥』、女性参政権。
10. 吉川英治「我以外皆師」(1892-1962)国民的文学作家として人気が高い。「宮本武蔵」は朝日新聞連載小説(4年間)であった。吉川英治文学賞が優れた作家に授与される。

